

# まちの拠点の利用実態と地域の主体的活動に関する研究

—ながせのながやを対象として—

正会員  
同上

○中村優希\*  
鈴木 毅\*\*

地域活動 小商い 拠点  
長屋 リノベーション まちづくり

## 1. 研究背景・目的

近年、様々な地域活動を支える場として新しいタイプの拠点が各地に生まれている。本研究は、長屋をリノベーションした事例を対象に、その利用実態と活動主体を調査し、現代における地域活動の状況とそれを支える場に求められるものについて考察することを目的とする。

## 2. 研究対象・方法

「ながせのながや」は東大阪市近鉄長瀬駅近くにある地域拠点で、1931年に建てられた二軒長屋を、学生団体あきばこ家（近畿大学建築会学生会部会建築研究会部会）がリノベーションし、2016年7月から「地域、子ども、学生に開く」をコンセプトとした地域サロンスペースの貸出し（有料）と学生用シェアハウス運営を行っている。

本論文では、地域サロンを過去に利用した30団体から現在も活発に活動している16団体を対象に、活動内容と利用実態について現地調査とインタビューを行う。

## 3. 活動主体と利用実態

地域サロンは月約8割の日は利用されている。利用者の概要を表1に示す。団体が多いが個人主催も4つある。半数は多世代向けで次に高齢者・主婦が多い。利用頻度は週2回～年1回まで幅があり月1が最も多い（6団体）。

活動内容・形式には「販売」「教室」「講座」「集会」

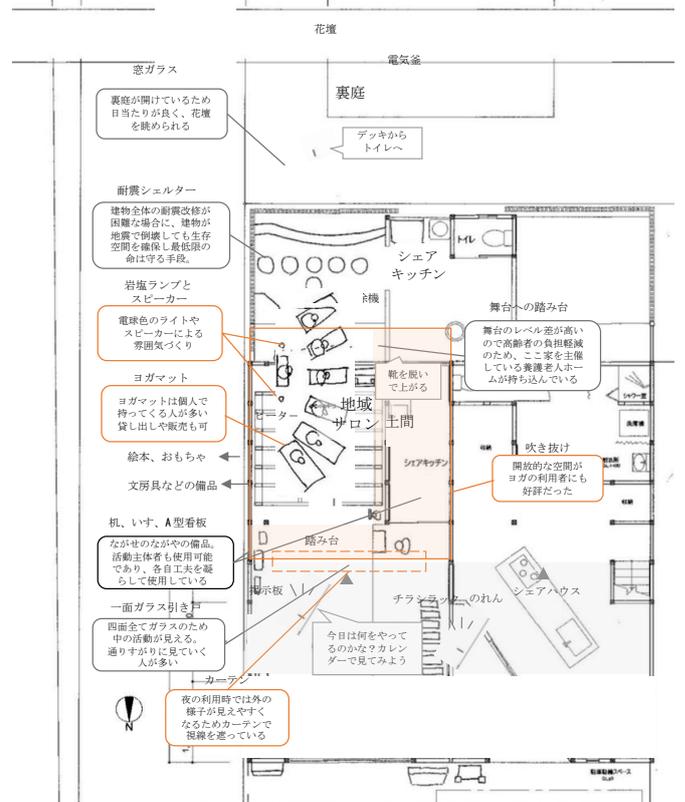


図1 ながせのながや平面図と利用状況（ヨカ教室）

「展示」があり、特に販売形式の活動が多い（10団体）。他の場所（東大阪や近くの市から神戸まで）でも活動している団体が11団体ある。なお4団体（2, 4, 6, 7）はながせのながやをきっかけにして生まれた活動である。

表1 地域サロンを定期的に借りている活動主体者一覧

名称	利用用途	形式	人数	構成	頻度	代表者	使用開始日	対象	使用曜日	他地域での活動
1 SAM ADHI	ヨガの教室	教室	1	個人	週2	女性	2016/7	子育てママ、子供	木、土	弥刀、小阪
2 手作り市	手芸材料、雑貨や洋服など手作り商品の販売	販売、講座	6	団体	月1	女性	2016/10	主婦、高齢者	金	無
3 にこっと	中年女性に向けた洋服などの仕入れ品の販売	販売	1	個人	月1	女性	2017	主婦、高齢者	金	神戸、大阪、京都
4 よりみちサロンここ家	東大阪養護老人ホーム主催の地域活動	教室、講座、集会	2	団体	週1	男性	2017/6	高齢者	水	東大阪市内
5 食育教室あいまいみいみいん♪	食育教室	教室	3	団体	年4	女性	2018/4	親子	日	東大阪市内、八尾
6 吊るしびな展示会美輝	吊るしびなの展示と古布による小物作成WS	販売、講座	1	個人	年1	女性	2018/6	高齢者	不定	無
7 読書会	お気に入りの本を持ち寄って紹介	集会	6	団体	月1	男性	2018/7	多世代	不定	無
8 ながせの元気市	手作り品の販売や教室、マッサージ、占い	販売、講座	8	団体	月2	女性	2018/9	多世代、高齢者	火	高槻、八尾、関西圏
9 整顔・親眠サロンharukaze	美容サロン、顔を中心としたマッサージ	講座	3	団体	年4	女性	2019/1	多世代	日	東大阪市内、八尾
10 へちまきゅうり	こだわり野菜の移動販売	販売	2	団体	週1	男性	2019/1	多世代	木	柏原、八尾
11 ひつじの会	フリーマーケット、おはなし会	販売、講座、集会	9	団体	月1	女性	2019/2	多世代、子供	金	難波など
12 Trap セレクトショップ	アクセサリ、雑貨などハンドメイドの委託販売	販売	1	団体	週1	女性	2019/3	学生、主婦	木	八尾
13 メダカの辻本	メダカの販売、ちりめん細工の展示	販売、展示	2	団体	月1	男性	2019/5	高齢者	月	
14 パソコンよろず相談	パソコン利用者の困りごと相談	教室、集会	1	個人	週1	男性	2019/6	多世代	月	
15 iEN coffee	コーヒー、物販販売、ラテアートWS	販売	2	団体	月2	女性	2019/11	多世代、学生	火、木、土	奈良
16 Green Garden	健康と美容のマルシェ	講座、販売、展示	9	団体	月1	女性	2019/12	多世代	日	神戸、京都

#### 4. 考察

##### (1) 商いとしての活動の幅

物を販売する活動が最も多いが、利用料金が安価で、時間単位の貸し出しも可能であり商売のハードルが低く、趣味的な吊るしびなの販売から小商いのメダカ販売、全国の手作り作家を扱いずれば店を出したいセレクトショップから生業としての野菜販売まで幅がある。またメダカ販売など自分のペースで少しだけ売りたいというニーズの受け皿・きっかけにもなっている（図2）。

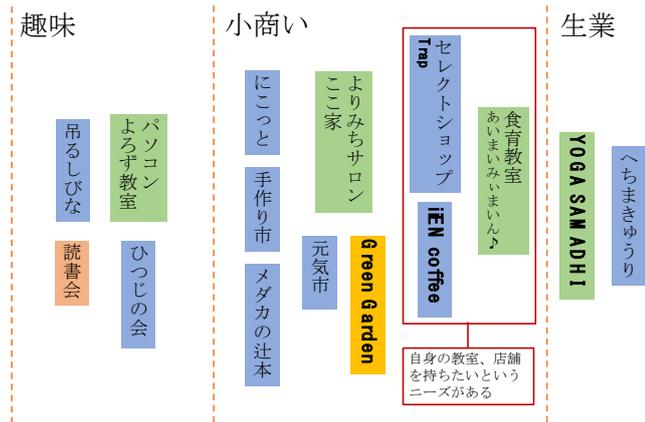


図2 販売形式の活動の幅の広さ

##### (2) つながりが生まれやすい環境

全体に地域に働きかけるオープンな活動が多いが、加えて活動者同士の交流会やイベントなど、他団体の活動に触れる機会があり、そこから活動者同士のつながりや、コラボレーションしやすい環境が生まれ、お互いの活動に相乗効果をもたらす関係づくりが可能である。

##### (3) 交流の拠点としての活動

ながせのながやの活動主体者の特徴として、活動は単なる販売活動や教室運営としての事業ではなく参加者やお客さんとなる地域の人や、団体内の活動主体者同士による交流の場として捉えていることが分かる。

またお客さんもそうした居場所的要素を求め、話をするために覗きに來るといった関係性が生まれている。

#### 5. いわゆる公共施設の貸室との比較

##### (1) 通りに面した空間

従来の公共施設では施設の中に貸空間があり、中に入らなければ活動が見えづらいことに対し、ながせのながやは通りに面しており、扉がガラス張りであるため、中での活動を外に発信しやすい空間となっている。

また参加者にとっても外から活動が見えやすいため気軽に訪れることや覗くことができ、参加しやすい。

##### (2) 土間と床座

インタビューにより、ながせのながやにおける活動が多様である要因の一つは土間と床座である。公共施設での貸し出しは会議室などイス座による空間が基本であり、ヨガのような教室形式と販売形式の活動が共存することは難しかったが、ながせのながやでは土間と舞台の空間が同じ建物内に共存しているため、一つの箱であっても形式の異なる活動の拠点になっていると考えられる。

##### (3) 空間をつくりこめる・しつらえられる

ヨガ教室主催者はしつらえとして音響や照明・香り（岩塩ランプを使用）にこだわっている。均質な箱としての貸室とは異なり、「空間をつくりこめる」（ヨガ教室主催者の言葉）ことが高く評価されている。

また活動主体者は各々自前の看板やのれんを持ち込み、通りに対して活動をアピールしている。さらに販売活動では商品のレイアウトにもこだわり、机などの備品に布をかけてしつらえるなどの使いこなしが見られる。この結果、ながせのながやは日替わりで違う店としての構えを町に提供している。

表2 のれんや看板による各団体のしつらえ

団体名	セレクトショップ Trap	よりみちサロン ここ家	ながせの元気市	へちまきゅうり
写真				
形式	販売	教室、講座	販売、講座	販売
対象	学生、主婦	高齢者	高齢者、多世代	多世代
持ち込物	看板、装飾	のれん	のれん、テント	看板

#### 6. 結論

- ・運営開始から3年を経て、ながせのながやは、多様な主体者により利用されている。活動は、販売、教室、展示、講座、集会に分類できる。最も多いのは販売で、趣味的なものから、小商い、生業としての商売まで幅が広い。
- ・ながせのながやがきっかけで生まれた活動も複数ある。全体に活動は内向きではなく、地域に対してオープンなものが多くコラボレーションも生まれている。
- ・利用者からは、住宅ではなく、通りに面し気軽に入りやすく、空間が作りこみやすい点が評価されている。
- ・各活動は、のれんや看板、テント等しつらえを工夫することで、通りに対し独自の表情を出している。
- ・起業家向けに特別にデザインされた施設ではなく、長屋をリノベーションした一室空間だが、ながせのながやは生業的活動を含む様々な地域活動の受け皿・孵化器・拠点となっている。

\*株式会社リプライス

\*\*近畿大学建築学部建築学科 教授

\* Reprice Co., Ltd.

\*\* Prof., Dep. Of Architecture, Kindai University, Dr. Eng.